

気象庁が6～8月の予報発表

今夏も全国高温

多雨・湿潤傾向にも要注意

気象庁は21日、今年夏(6～8月)の3カ月予報を発表した。地球温暖化等の影響で4月の世界平均気温は12カ月連続で史上最高(平年比+0.67度)を記録したほか、日本の4月国内平均気温も過去最高(+2.76度)を塗り替えている。そうした中、日本付近は向こう3カ月も引き続き暖かい空気に覆われやすく、平均気温は「全国的に高い」見込み。ただし前線や湿った空気の影響を受け、3カ月降水量は西日本全域と沖縄・奄美で「平年並みか多い」と多雨・湿潤傾向も予測する。

地球温暖化や春までのエルニーニョ現象の余波などから、今年の夏は「全球で大気全体の温度がかなり高い」見込み。6～8月の高温確率は今年2月の暖候期予報から▷北日本50%▷東・西日本60%▷沖縄・奄美70%一で一貫して変わっておらず、関東・北陸以西を中心に例年以上に厳しい暑さが予想される。

令和6年産水稻で重要な夏～秋にかけての出穂・登熟期間は、温暖化等の影響で“高温のゲタ”を履いたように大気温度が猛暑方向に底上げされやすい状態が基本的な気候環境となりそうだ。

また最新のエルニーニョ観測資料によれば、監視海域(南米ペルー沖)における今月上旬の旬別海面水温は大まかなエルニーニョ発生基準(平年比+0.5度以上)を久しぶりに下回り、「+0.4度」に下がった。5月の月平均海面水温でも15カ月ぶりに+0.5度を下回る可能性が高く、エルニーニョは急速に終息に向かっている。同時に太平洋赤道海域ではエルニーニョと入れ替わるようにラニーニャ現象発生の可能性が高まっており、夏から秋にかけては「温暖化影響+エルニーニョ終息余波+ラニーニャ発生影響」が折り重なる可能性がある。

一方、向こう3カ月降水量は西日本以西が多雨傾向見込みとなっただけでなく、北・東日本は多雨確率が少雨・平年並み確率を上回り、多雨含みの「ほぼ平年並み」予測に。また梅雨期間の月別降水量をみると、▷6月＝西日本太平洋側と沖縄・奄美▷7月＝東日本太平洋側と西日本全域一で多雨傾向(平年並みか多い)を見通すほか、7月の北日本全域と東日本日本海側では多雨確率が少雨・平年並み確率を上回り、やはり多雨含みの「ほぼ平年並み」予測となっている。

ラニーニャ現象はエルニーニョ現象と同様に世界的な異常気象の引き金になるほか、日本には猛暑影響だけでなく、気候の極端現象(熱波や大雨・干ばつ等)を助長する側面もある。猛暑・高温に備えつつ、東・西日本以西を中心に梅雨の大雨や多雨・湿潤傾向にも要注意の年となりそうだ。

表①6～8月の3カ月予報

		平均気温	降水量
北日本	日本海側	低20:並30:高50 高い	少30:並30:多40 ほぼ平年並
	太平洋側		少30:並30:多40 ほぼ平年並
東日本	日本海側	低10:並30:高60 高い	少30:並30:多40 ほぼ平年並
	太平洋側		少30:並30:多40 ほぼ平年並
西日本	日本海側	低10:並30:高60 高い	少20:並40:多40 平年並が多い
	太平洋側		少20:並40:多40 平年並が多い
沖縄・奄美		低10:並20:高70 高い	少20:並40:多40 平年並が多い

(注) 数字は各階級ごとの予想確率 (%)。北日本は北海道・東北。
東日本は北陸・関東甲信・東海。西日本は近畿～九州。

表②6～8月の月別気温見通し

	6月			7月			8月		
	低	並	高	低	並	高	低	並	高
北日本	20	40	40	20	40	40	20	30	50
	平年並か高い			平年並か高い			高い		
東日本	20	30	50	20	30	50	10	40	50
	高い			高い			高い		
西日本	20	30	50	20	30	50	10	40	50
	高い			高い			高い		
沖縄・奄美	20	30	50	10	30	60	20	30	50
	高い			高い			高い		

(注) 数字は各階級ごとの予想確率 (%)。